

告177-8  
(告177-2の反訳)

山内：概要書は、審査会で出せってことだと・・・

野村：概要書じゃないですよ。提案書ですよ。あのね、採択になったものと、なっていないもの。これ当然ね、ある程度扱いが違って当然ですよ。少なくともね、採択になったものに、については、相手の同意があろうが、なかろうがね、お金を払ってるものなんでね。

野村：出ますよ。普通。見積書なわけですから。

山内：それは違う。だって提案の資料ってのは、うちに帰属するものじゃないんだから。

野村：ちょっとまって。

山内：うちで帰属するものでないんだから、

野村：提案をもらった段階でね、それはね、ちょっと・・・

山内：それは出せませんよね。

野村：人が喋ってるときにね、口を挟むのはやめてもらえませんか？

山内：お互い様だ。

野村：そういう失礼な言い方はね。ちょっと待ってください。副町長、あなた、いっつもそうだけどね。

山内：お互いでしょう。

野村：ちょっと人がね

山内：こういう言い合いになるから、嫌なんだけど・・・

山内：違う。あのね、あのね、僕がね、チセヌプリの件で調べてるのはね、僕だけの話じゃないですよ。僕はね・・・

山内：（不明）いいですか。権利あるんですから。

野村：紳士的な話しませんか？

山内：いや、そっちが声を荒げてるからね、

野村：落としますから。チセヌプリについてはね、僕はね、いろんな複数の人からね、「あそこおかしいよね」と、「おかしいよね」と言われたからね、調べてるんですよ。調べたんですよ。

山内：ね、僕が聞いている内容っていうのはね、僕1人が気付いているわけじゃなくてね、誰もが聞き方がわかんないだけでね。「おかしいよね」と、「おかしいよね」ということをね、いっぱいあるんですよ。ね、それもわかってますよね。

野村：よくわかんなかったらいいですよ。あなたが分かんないだったら。でも僕はね、そういう「おかしいよね」って人は僕だけじゃなくてね、

山内：いっぱい、だから、連れてきてください、そういう人。いっぱい連れてきて、お話してください。そういう人がいっぱいいるんだったら、僕はわからないけど、これね、聞いてますけどね。

野村：これちょっと、あのね、記録とらせてもらっていいですか？前みたいに。

山内：録音、録っているんだべ？

野村：録ってますよね。

山内：もう何言ったかはっきり言わないとね

野村：僕も録りますけどね。これね、当然、あのね、こういうことで、どういうことをね、副町長、あなたが言ったってことはね、必要に応じて公開しますよ。

山内：どうぞ、間違ったこと言ってないと思っても

野村：言ってるのはね、僕はね、あなたからね、チセヌプリがね、売られたのがね、実際オープンしたときにね、最初のワンシーズンでね、20件も、30件もクレームがあったと聞いてますよ。

山内：運営に関してですね。はい。

告177-8  
(告177-2の反訳)

野村：それをあなた聞いているわけでしょ？

山内：いや、それは運営に関して、やり方が、最初にやり方が「どうなんだ？」っていうことにクレームが……

野村：だから、僕はそのことを言っているんだよ。「おかしいよね」っていうことは。

山内：それは運営のことでしょ。売買に関してではないですよ？ あなたが言っているのは。あそこに譲ったことに関しておかしいということで……

野村：運営というのは、売買に基づいてね。運営権を獲得するわけですよ。

山内：いや、それは。いくらでも直せるでしょ。結局、直して、今、クレームないわけですから、5年たって。

野村：みんなあきらめますよ。

山内：それは分かりません。

野村：僕が、僕が確認してるのはね、

山内：あなたの考え方です。

野村：僕が確認してるのはね、あなたはね、僕がね、自分1人だけじゃないんですよ、他にもいるんですよと、わかってますか？ と。あなたはね……

山内：当初はそうやって言いますよ、運営の仕方に関してはね。俺言いました。クレーム何個もあったから、だから堀江さんお願いして、あそこで調整してもらってるってこと言いましたよ。

野村：もうちょっとね、もうちょっと落ち着いた話にしませんか。紳士的にね。あなたはね、あなたはね、それがまるで僕だけであるかのようなね、言い方をしてるけどね、僕だけじゃないでしょ。それは20件クレームがあった、ということだね。あなただって、自覚あるはずだよ。

山内：前提は、よくわかりませんが、この20件は、そんなに重要なことだとは、

思っていないから。

野村：裁判沙汰になったんじゃないですか。結局、その中の 1 人のクレマーのね、クレームを言った人。

山内：それは町に対してないですけどね、町に対してではないですし、その結果は、僕もどうだったか、分かりませんがね。

野村：いや、それね、僕は記録取ってますよね。あなたがね、あなたがね。うちは関係ないんだと、北海道だ、北海道だって言うから、仕方なく、彼は北海道にね、北海道なり、運営者そのものに、当たるしかなくなったわけですよ。

山内：それはそうでしょう。うちは売っぱらったわけですからね。

野村：じゃ何で堀江さんに頼む必要があるんですか？ 売っぱらってと関係ない、と言いながら。

山内：山全体の調整を、安全調整を図るということが・・・

野村：じゃあ、お尋ねします・・・

山内：議会にそれは、お願いして、予算を付けて、もらってやってることですから。それはあなたが悪いとか、駄目だとかって言ったって、それはこっちはちゃんとした手続き取ってやってるわけなんですよ。何回も言ってますよね。

野村：議会を通ったから何でも OK というものじゃなくてね。

山内：それが議会、議会制民主主義ですから、そういう手続きを取らなかった・・・

野村：それは、議会への責任転嫁に過ぎませんよ。議会が承認しようがしまいが・・・

山内：そんなこと言ったら、事務が一步も進みませんよ。事務が 1 本一步も進みません、そんなこと言ったら。議会が信用できないとか、議会が通ったことが、通っても駄目だとか、そんなんだったら、行政の事務ってのは、一步も進みませんから。

告177-8  
(告177-2の反訳)

野村：よくね、政治家がね、政治家がね、疑惑を受けたときにね。なんか、いや、それはもう司法に任せてあるからと、つまり、警察がね、立件して事件にならないければね、自分は問題ないんだ、と言わんばかりのね、言い方をすることがありますよ。つまり、司法への責任転嫁。自分の説明責任だとかね、紳士的にね、自分のね、やってることをね、反省するんじゃないでね、警察にね、なんだ、あの調べられてないからね、俺はシロだと言わんばかりのね、言い方をするのと同じ。ね、それはあなたが言ってることはね。ただ単に議会への責任転嫁に過ぎないよ。